

第2次藤井寺市まちなか観光創造プラン（案）についてのパブリックコメント実施結果

1. パブリックコメント実施状況

- (1) 意見募集期間：令和5年2月27日（月）～ 令和5年3月12日（日）
- (2) 提出者数：3名

2. お寄せいただいたご意見と市の考え方

番号	お寄せいただいたご意見	ご意見に対する市の考え方
1	<p>文化・観光資源としての古市古墳群の利活用については、羽曳野市との連携が不可欠です。今年度に羽曳野市は観光局を作りましたが、できることなら、藤井寺と両市が人と資金等を出して「観光公社」をつくり、そこで一括して振興計画を立てればいいのかと思います。</p> <p>現在のシュラホールの展示内容はすばらしく、有料の博物館施設と比べて何ら遜色ありません。上記観光公社で専門の博物館施設等を建てて古市古墳群関係の展示はそちらへ移し、シュラホールの展示は、直近の葛井寺や井真成を中心に、国府遺跡や道明寺天満宮などを交えた通史的なものにしてはいかがでしょうか。</p>	<p>いただきましたご意見の通り、当市の代表的な観光資源であります古市古墳群の利活用につきましては、羽曳野市との連携が不可欠です。本プランで提示しております地域間連携による観光事業の促進に基づき、羽曳野市とのさらなる連携強化を図ってまいります。</p>
2	<p>全体計画を読ませていただきました。今後の方策としてプランに賛成いたします。その上で…付け加えをさせていただきます。特に P22、31、42 および P54 に関してです。22 ページでは「観光ボランティアへの支援」と「小学校の世界遺産学習」が記載されています。これを何とか、さらに結びつける方策を検討いただきたいです。せっかくフィールドワークにおいて小学校の児童がボランティアから話を聞いたりするのですから、その延長線上で地元中高生によるボランティアガイド・サークルのようなものを設立していただけないでしょうか？ もちろん具体的なコンテンツの作成には藤井寺市観光ボランティアの会が積極的に参画します。そうすれば、休日の社会教育活動、若者の健全育成、街の活性化など効果が期待できるのではないのでしょうか？ さらに中高生が習った英語を</p>	<p>いただきましたご意見を参考に、公民どちらの視点においても、本プランで提示しております計画推進体制に基づき、観光と教育の連携および推進について検討していきます。</p>

	<p>海外から来訪された方々に向けて使えば「生きた英語教育」にもなります。これは P31 で指摘された観光案内所の必要性とも関連します。本当は「ひと」が必要なのではないでしょうか。「その案内所にいけば中高生・四天王寺を中心とした大学生、さらに歴史をよく知っているベテランもいるんだよ」となれば人はますます集うのではないのでしょうか？</p>	
<p>3</p>	<p>藤井寺市=「HOTEL」日常の中の非日常、大阪藤井寺市全体を回遊型体験小旅行を楽しむ。市内外や府外、国外からの観光者へ、まち全体で「おもてなし」を。アルベルコディフーズの考えを活用した観光戦略を提唱致します。情報拠点「シュラホール」を基軸に、食「レストランや居酒屋バー、カフェ市内事業者」、宿・休「空き家、古民家の活用」、体験「クラフトビール、職場体験、座禅体験、農作業体験」、観光「古墳・寺社仏閣」、移動手段「レンタサイクル※アプリ活用」を活用したプラン。</p> <p>【見えてくる課題と解決ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入口と出口戦略について→大阪府キャンペーンや旅行関係事業者と合同企画 ・インフラ【レンタサイクル貸し出しと乗り捨て】→公共施設、駅の設置と各事業者の参画 ・事業者の理解→連携を行うための規約取り決め、役所からの補助、明確な基準が必要。 <p>マインドの共有が大事で、上記の基準を関係者が提示「プロジェクトの運営委員が必要と思う」し、参画事業者を集う。参画事業者には何らかの補助体制が必要と思われるが、あくまでも初期段階での明確な戦略を立案し、市民、事業者への理解が必要です。コンシェルジュの居るシュラホールがハブの役割を果たし、藤井寺市の魅力を体感していただくために、まち全体が一つのホテル観光地となることで 2025 年大阪万博に向けた観光の取り組みができると思われる。ご検討の程よろしくお願ひ致します。別紙にアルベルコディフーズ「藤井寺版」のイラストを添付しています。ご検討をよろしくお願ひ致します。</p>	<p>いただきましたご意見を参考に、第3章 藤井寺市の観光振興方針 - 4. 実施プログラム - (3) プログラム実施環境の整備 - ①担い手による活力創出と人材育成において、下記内容を追記することとします。</p> <p>P49</p> <p>ウ) 地域内ネットワークを基盤とした新たな事業の創出支援</p> <p>地域内で強化されたネットワーク・コミュニティを基盤として、多様な主体による共創事業の展開を目指すとともに、随時情報提供等の支援を行います。</p> <p>具体的な取り組みイメージ：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちぐるみでおもてなしを行う宿泊施設や観光プランの創出【民間】 <p>【他市事例】</p> <p>SEKAI HOTEL 布施(大阪府東大阪市)/商店街に点在する空き店舗を改修し、フロントや客室にして宿泊施設として提供するとともに、商店街店舗等と連携し飲食店の紹介や食べ歩きツアーの実施を行っている。</p>